8/29

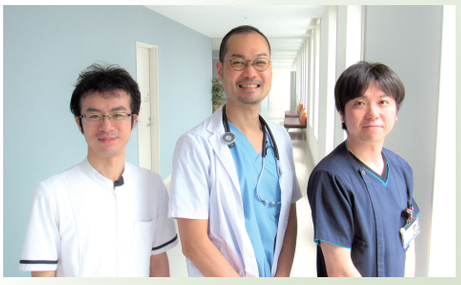
学会誌に掲載されました

令和 4 年 8 月 29 日発行『徳洲新聞』（No.1353）

淺見・武蔵野病院部長が論文

適正な嚥下調整食を提供へ

日本摂食嚥下リハビリ学会誌



「多職種協働による食支援プロジェクト」に参加した（右から）栄養管理室の土屋輝幸副室長（管理栄養士）、淺見部長、リハビリテーション科の伊藤敬市副主任（言語聴覚士）

武蔵野徳洲会病院（東京都）の淺見貞晴・循環器内科部長兼 NST（栄養サポートチーム）委員長は、日本摂食嚥下（えんげ）リハビリテーション学会誌に論文を投稿、26 巻 1 号に掲載された。テーマは「インフォグラフィックの手法を用いた嚥下調整食学会分類の試み」。嚥下調整食に関しては地域や施設で名称・形態が異なるケースがあることが課題。そこで東京大学高齢社会総合研究機構「多職種協働による食支援プロジェクト」の一環で、「日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類 2013」普及のため、2019 年に西東京市でインフォグラフィックの制作を開始した。

具体的にはクリアファイルに学会分類をデザインし医療・介護関係者に配布。在宅ケアスタッフ 104 人（回答は 98 人）にアンケートを行ったところ、以前から学会分類を知っていたのは 13 人のみ。71 人が業務中にクリアファイルを使う機会があると答えた。

淺見部長は「臨床家、行政職、研究者の合同研究で、地域医療に資するプロジェクトでした」と手応えを示す。一方で「退院前合同カンファレンスでの利用など通じ、摂食嚥下の非専門職への普及が重要」と指摘。現在も学会分類 2021 に更新したクリアファイルの配布など通じ、より広い地域への普及プロジェクトに参画中だ。